



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
<http://sanchurch.jp/>

三軒茶屋 教会通り

第41号 2011年4月発行

〒154-0024
東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: 03-3418-4933
発行: 三軒茶屋教会 広報部

喜びとは何ですか。最近、何に喜びましたか。
教会学校の礼拝で問いかけてみたが、沈黙がしばらく続いた。大人でもすぐに答えを口にするのは案外難しい。そもそも普段の日常生活において、「喜び」そのものについて語る機会はまずない。
面白い。楽しい。こちらの方がより具体的で身近な感情だろう。どこかへ旅行へ出掛けた。親しい人々と余暇を過ごした。欲しかったものを買った。趣味に打ち込む時間を過ごした。やろ
うと思っ
ていたこと
やっとなが
付られた。
ワクワクす
るような娯
楽を楽しんだ。そうしたことは、確かに面白いし、楽しい。
では、「喜び」とは何だろう。心から喜ぶ。喜びに満ちている。常に喜んでいることができる。そうした心境は、理想的で観念的な感情や心理について語っているだけなのか。
主イエスは、天にある喜びについて様々なたとえで豊かに語っている。見失ったもの、もうダメかもしれないと思つた羊が無事であった。失くした銀貨が見つかった。そこに帰って来るべき息子が帰ってきた。そ

喜びを味わう

牧師 伊藤英志

うしたことが、天に大きな喜びをもたらすと告げている。(ルカ福音書15章以下)
「喜び」の本質は、予想外の出来事でありながらも「新しい発見」をなしえた時にわきあがる、抑え切れない心の動き、霊の衝動なのではないだろうか。
今まで見たことがない出来事を見るときを迎えた。何か新しい事態が始まった。健やかな意味で自分の予想を覆された。そうした意外な出来事がもたらされた時、その人は喜びに満たされる。
新しい生命の誕生とその成長。入学や卒業などの新しい門出。努力が報われた瞬間。長く待ち望んでいたことの実現。それらは、常に新しい発見をもたらす。そして人を喜びで満たしていく。
しかも、そうした喜びは、一人でひっそりと味わえるものではない。「一緒に喜んでください」という衝動に駆られる。手を握り合い、抱き合つて、共に喜ぶ者たちを一つにしようとする。



そうした喜びは、霊が結ぶ実であり、喜びを禁じる掟はないと聖書は告げている(ガラテヤ5章22節)。
キリスト者とは、聖霊が導いて結んでくださる実の一つである「喜び」に生きる者たちである。その喜びは、主の日の礼拝において最も際立って示される。
今まで何度も読んだはずの聖書の箇所や、数え切れない回数を歌い込んだはずの讃美歌の歌詞が、全く新しい響きをもたらす。説教題を聞いて想像していたみ言葉の展開が、全くの予想外の言葉となつて迫ってくる。今まで心に抱いたことのない祈りの言葉を思わず口にする。そして、神について、自分について、全く新しい発見に目が開かれる。
それらが、魂の喜び、霊の深い喜びとなる。そして新しい自分になつていくのを実感する、恵みに満ちた喜びとなる。
たとえ厳しい現実や苦しい困難に覆われているとしても、霊の喜びがあるところ、道が開けていく。真の喜びによって来るべき未来が見えてくる。教会は、そうした喜びを一同が共に味わう礼拝を、地上において実現させていくのです。